

《編集後記》

世界が大きくゆらいでいる。東欧…旧ソ連圏…アジア。新しい世界規模のホメオ・スタシスをまざぐりあてようとして、五五億人類の、知の探査は、またもや、終りのない旅の出発点に佇ずみ、おののく。

しかし、人と自然の関係を再構築しようとするおやみない営為は、ひとしお、根源的な課題を、地球全域にわたる、無限の渚でゆすぎつつけてきたのだった。

人の、自然への挑戦と破壊、という、決定的に不幸な出会いから、人と自然の和解、という、永続的な親和の方向へと、関係修復を迫られて、さらに、わたしたちの関心は、底知れない深部へと、すいこまれていく。

と、同時に、ますます、E・ライシャワー氏のいう「地球共同体」へと針路をとりつつあるかにみえる世界の一部であるはずの日本の、さまざまなグローバリゼーションにかかわる問題は、それが、具体的なものに焦点をむすぶほど、緊急性を帯び、かつ、必須のものとなる。

今号は、以上の二つを、特集とさせていただいた。

稿をよせていただいた諸先生に、心からの感謝を申し上げますと共に、発刊の遅れをおわびして…

一九九二・一〇

原子 修